

さくっと!

サーバー便り

HPE公式オンラインストア (HPE DirectPlus) からのおすすめ情報と
今気になる話題を毎月お届け

2024年11月号



今月のおすすめ情報

性能と電力効率がぐっと向上

AMDプロセッサ搭載サーバーも
ご検討ください!

第4世代AMD EPYC™ 9004シリーズプロセッサを搭載したHPE ProLiant Gen11サーバーは、性能と電力効率をさらに高めており、前世代の機種と比較して最大99%の性能向上および最大43%の電力効率の向上を実現します。AMDプロセッサ搭載サーバーも是非ご検討ください。



[くわしくはこちら](#)

総合カタログ大幅リニューアル!

「HPEプロダクトセレクション」

HPEの製品総合カタログ「HPE プロダクトセレクション」の最新刊では大幅リニューアルし、以下のような内容を新たにご覧いただけます。

- 一目でわかるポートフォリオ
- 製品/サービスのポイントを絞った特長
- サーバーのモデル間のスペック比較をやすく

知ってましたか?

HPE DirectPlusなら、「HPEプロダクトセレクション」に記載の製品番号から、CTOベースモデルを一発で検索・カスタマイズしてお見積ができます!



メディア記事連載×エッジコンピューティング

「こんなところにサーバーが?」

データの発生する現場にサーバーを設置し、その場で迅速なデータ処理をする“エッジコンピューティング”。HPEで長年プリセールスエンジニアをしている小森が、病院や工場など、「こんなところにサーバーが?」と思うようなエッジコンピューティングによるソリューションをご紹介します。



[記事はこちらから](#)

カタログは
[こちら](#)



検索・見積
はこちら
から



関連情報

[Living Progress
レポート
2023年度](#)



[HPE DirectPlus
サーバー
ラインアップ](#)



2040年にネットゼロ実現を目指す HPEの環境戦略

ネットゼロ目標を2050年から2040年に10年前倒し

HPEは、データファーストの世界のために持続可能で責任あるテクノロジーソリューションを創造することをミッションとしています。その中の取り組みの1つが「ネットゼロ※の加速」であり、バリューチェーン全体で2040年までに温室効果ガス排出量ネットゼロを目指しています。2022年、HPEは従来の温室効果ガス削減目標を予定より早く達成し、ネットゼロ目標を2050年から2040年に10年前倒しました。

※温室効果ガスの排出量から森林吸収量等を差し引いた合計を「正味ゼロ」とする考え方



2023年の科学的根拠に基づく目標に対する進捗

温室効果ガスの Scope1とScope2 の排出量を 3年間で18%削減

事業活動による温室効果ガスの直接排出をScope1、他社から供給された電気などの使用に伴う間接排出をScope2、それ以外の間接排出をScope3としています。

事業活動に 52%の 再生可能エネルギー を利用

再生可能エネルギーの使用を2025年までに50%にするという目標を2023年に前倒しで達成。2030年までに100%にすることを目指しています。

Green500の トップ10のうち6台 がHPEのシステム

Green500はエネルギー効率の高いスーパーコンピューターのリストであり、103のHPEシステムがランクイン。「Frontier」を含む6システムがトップ10入りしました。

IT効率向上など 次世代テクノロジーの 研究開発により、 783件の特許を取得

ITサステナビリティのメリットをもたらす電力消費管理や余剰電力の削減、電力にもとづくリソース割り当ての実現などが含まれます。

HPEの製品ライフサイクル管理

長寿命で廃棄物の少ない製品を設計することで、お客様の総所有コスト (TCO) と IT 環境の環境負荷を低減します。

製品設計

- 製品ライフサイクル全体に対し持続可能性を考慮した設計プログラムを導入
- お客様が修理、アップグレード、再生、改修を通じて製品の耐用年数を延ばせるようモジュール設計を採用し簡単な分解を実現



環境負荷物質の排除

- 製品のライフサイクル全体にわたり安全性の確保を最優先
- 潜在的な規制物質を特定・除去し、新たな世界的および地域的な規制に準拠
- パートナーが規制変更に対応する時間を確保できるように世界各地の法規制遵守期限の6か月前に規制物質を段階的に廃止

リユース・リサイクル

- 使用済み製品を買取りし、資産価値をお客様に還元するとともに、そのIT資産を再生し再利用することでIT製品の寿命を延伸
- リサイクルよりもリユースを優先
- IT業界で世界最大規模のテクノロジーリニューアルセンターにて信頼あるパートナーにより対応

パッケージ (梱包材) デザイン

- 環境への影響を最小限に抑えたパッケージ
- 発砲スチロール (EPS) の排除
- 段ボール箱内のリサイクル素材の使用
- ポリウレタン (PU) の除外
- 低密度ポリエチレン (LDPE) フォームのリサイクル材料の使用拡大
- 紙文書を電子文書に置き換え段階的に廃止

日本ヒューレット・パッカード合同会社
〒136-8711 東京都江東区大島2-2-1

© Copyright 2024 Hewlett Packard Enterprise Development LP.

本書の内容は、将来予告なく変更されることがあります。日本ヒューレット・パッカード製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。日本ヒューレット・パッカードは、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱字に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。記載事項は個別に明記された場合を除き2024年11月現在のものです。

a50011659JPN